

# 川東の里だより

2003.8 No.75

発行者  
伊藤義則

発行所  
きたみ学園  
きたみ学園成人部

☎ 24-2701

川東学園 ☎ 24-3030  
友楽里・風楽里

☎ 23-9591

北見市川東 226 番地  
印刷所  
(有)サンケイプリント社



二十五回も年を重ね  
た“きたみ学園”親子  
一泊旅行、子ども達が  
小さい頃は、旭川、帯広、  
釧路の動物園と知床の  
旅めぐりでした。

最近は近くの温泉で  
ゆったり、豪華旅行。

今年は知床の旅、総  
勢百五十名、ホテルで  
の貸切・豪華バイキン  
グを楽しみ、遊覧船で、  
自然に酔い、かもめと  
たわむれました。

まあ、来年はどうで  
しょう。

盐で元気に参加した  
いですね。

## 『自立支援に思う』

友楽里・風楽里 支援課長

村田 勉

日本の知的障害者福祉の本格的な展開は戦後始まつたと言えます。その主流は人里離れたところに建てられ、大勢の人が生活する『入所施設』でした。入所施設は戦後の高度経済成長とともに全国津々浦々に設置されるようになり、その流れはつい最近まで続いていました。そのため現在では、全国約二、〇〇〇カ所の入所施設に十二万人もの人達が生活しています。

この状況を欧米の福祉先進諸国と比較しますと、日本の有り様は福祉の進歩に逆行していると言えます。

デンマーク、スエーデン、ノルウェー、カナダ、アメリカ等、福祉先進国と言われる国の中の障害者も、昔は大規模な入所施設で生活していました。しかし、『地域社会から隔離されるような施設での

人が生活する『入所施設』でした。入所施設は戦後の高度経済成長とともに全国津々浦々に設置されるようになり、

かかれらは、町の中で、地域社会で、一般の人と分け隔てなく、豊かに生活しているのです。

これらの国の地域社会には、障害があつても生活できる制度や条件が十分に用意されているからです。

私たちの国、日本は米国に次ぐ世界第二位の経済大国であります。景気の低迷はあるにしても、この様なことが出来ないはずはありません。

現在の日本では、緊急な生活の場および自立訓練施設としての入所施設の役割には、ま

生活は非人間的であり、障害があつても、一般の人と同じように、地域社会と一緒に生活ができるようすべくできる。』という考え方に基づき、入所施設は次々と閉鎖されました。

現在では、これらの国に入所施設はほとんどありません。

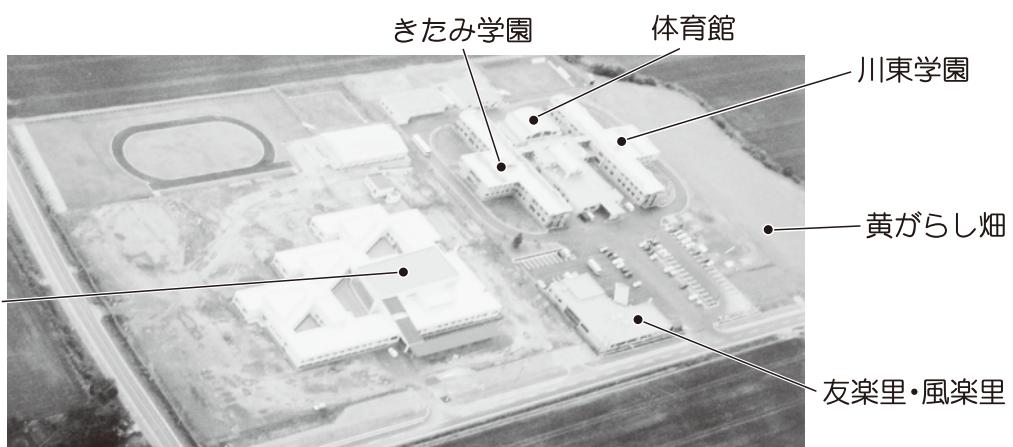
それでは、そこで生活している人達はどこへ行つたのでしょうか。

かれらは、町の中で、地域社会で、一般の人と分け隔てなく、豊かに生活しているのです。

これらの国の地域社会には、障害があつても生活できる制度や条件が十分に用意されています。

平成十五年は、知的障害者福祉に自由・平等・自己選択を理念とする支援費制度が導入された年です。今年こそは、本当の意味での福祉元年になります。ただ祈念し、「川東の里」の各種自立支援機能を高めながら、利用者ニーズに精一杯応えて行きたいと存じます。

道立紋別養護学校  
きたみ学園分校



## 『自立生活へのサポート』

川東学園支援課長

小山穂積

長年待ち望んでいた新しい施設に引越しして早や六ヶ月、利用者は何事もなかつたようにそれぞれの新しい生活の場に浸透しています。その浸透はスムーズで、心配していた混乱も見られませんでした。

整った生活空間の拡大は静かさと同時に、落ち着く環境であります。その環境への適応は早く確かなものとして実感させられるものでした。そたちが配慮された生活環境に適応できること、一人一人が本来持ち合わせている能力を発揮されていることではないかと思います。自分の「城」を持ったことの喜びと安堵感は精神的苦痛からの開放です。

集団生活を強いられる苦痛は生活されている本人にしか解らないものがあります。その環境整備について一〇〇%満

足ということにはならなくても、この「城」が大切な「情操の安定」につながり、生活行動への「意欲」へとつながることが期待できることです。

その意欲が「自分のできることを見つける」方向につながれば自立生活への助走となることだと思います。そこで、行動意欲をどう導くかが支援の領域になつてくるものと思いますが、そこではお互いの「信頼関係」が欠かせない大切なものです。支援者としては「この人ならどんなことでも聞いてくれる、託せる・話せる」という存在になることでしょう。それがサポートする前提条件だと考えます。その「託せる・話せる」

存在はそれぞれの人たちに対して、人生に大変貴重な位置を占めることになります。そして、その人が将来どこで生活することになつてもその信頼にもとづいた支援は長い間保たれることになるでしょう。

## 『自立について思うこと』

共同作業所フレンズ

工藤嗣巳

共同作業所は一九八三年、入所している利用者の皆さん、の福祉就労の場、自立を手助けする場としてスタートしました。ハムソーセージ作りを通して働く事の楽しさ、厳しさを知り、ここから巣立つていった方もたくさんいます。

地域で生活する為にはやはりお金がかかります。生活する方法としてはアパート等での個人生活、グループホーム等の制度を利用しての生活になります。現在グループホームで生活している方々は障害年金と作業所、訓練農場で得た実習手当、一般就労している方々はそこで得た給料を合わせて自立生活をして、その人が将来どこで生活することになつてもその信頼にもとづいた支援は長い間保たれることになるでしょう。

「自立」にはたくさんの形があると思います。幸い就職でき、自分の身のまわりの事ができる人は一人で生活する事もでき、文字どうり「自分で立つ」事ができるのでしょう。しかし全ての方々が必ずしも自分一人の力で職場を見つけ生活する事はとてもむずかしいのも事実です。その為、その人に合った支援や生活の場福祉的就労の場が必要不可欠となります。

仕事、生活の他、「余暇」というとても大切な時間の過ごし方があります。みなさんいろいろ楽しい事に興味がありたくさん体験したいのですが市外になると一人で行けない、お金がかかる、交通機関を利用できないと問題が多くあります。

ここに書いた以外にも生活する為に必要な事はたくさんあるでしょう。本当に障害を持つ人々が普通に暮し、自立する為には制度や施設の機能を利用しなければ現状ではむずかしいでしょう。サポートして下さる方がもつと増え、普通に「自分の暮らし」が保障される事を望みます。

デイサービス事業を始めて  
「次のレクリエーションなに?」

風楽里支援員

橋本厚子

四月から新しくデイサービス事業を始め、はや四ヶ月が過ぎました。今までの「通所施設」とは違い、利用する方も「デイサービスのレクリエーションの案内をさし上げても戸惑う方が多かつたようです。

今は月々金曜日の日中活動のサービスとして、利用する方のニーズや希望に合わせた文化的活動、機能訓練、作業提供等を行つております。同時に給食・送迎サービスも利用していただいております。

また、毎月隔週の土・日曜日に余暇活動としてレクリエーションサービスを提供しております。以前から通所生や共同作業所の所員として、知り合い同士の方も多いのですが、四月から新しくサービスを利用始めた方もおり、レク

ス事業を始め、はや四ヶ月が過ぎました。今までの「通所施設」とは違い、利用する方も「デイサービスのレクリエーションの案内をさし上げても戸惑う方が多かつたようです。

今は月々金曜日の日中活動のサービスとして、利用する方のニーズや希望に合わせた文化的活動、機能訓練、作業提供等を行つております。同時に給食・送迎サービスも利用していただいております。

また、毎月隔週の土・日曜日に余暇活動としてレクリエーションサービスを提供しております。以前から通所生や共同作業所の所員として、知り合い同士の方も多いのですが、四月から新しくサービスを利用始めた方もおり、レク

リエーションに参加する毎に新しい仲間や友人が増えていくようです。

レクリエーションでは、

「体育館でゲーム大会」「お花見ジンギスカン」「炊事遠足」「もこと山登山」「パークゴルフ大会」等、いろいろな行事を提供し、利用する方の参加希望を募っております。さらに夜のデイサービスでは「カラオケ会」「ミニバレー」「ボウリング」等を提供して好評をいただいています。

サービスを終えて自宅送迎するときに「あー、楽しかった。次のレクリエーションなに?」と利用者から言われると提供者として「デイサービスを実施してよかったです。」と思わずいられません。この言葉を励みにして今後もサービスの充実に努めていきたいと思います。

『新事業の紹介』

指定居宅介護支援事業所

友楽里支援員

柴山小百合

友楽里の新しい事業としての、居宅介護支援がスタートして、早一ヶ月が経ちました。現在、友楽里、風楽里、共同作業所、就労されている方々の七十名程が契約されていて、個々の希望に添つて利用して頂いている状況にあります。

居宅介護では、グループホームや在宅での移動介護・身

体介護・家事介護等の、生活全般に亘る支援を受ける事ができます。利用者の方のニーズは様々ですが、余暇活動の広がりや、仲間との交流、趣味の取り組みとして等、支援

期待して、様々な情報提供を行ひながら、サービス

きりと引き出す事によって、個人の生活の自信と活力の根源となる様な支援を、提供して行きたいと思っています。

シヨツピング、映画、外食、

喫茶、カラオケ、ボウリング、温泉入浴、プール、美容室や

通院引率、掃除、洗濯、料理、

家計簿記録等の支援を今迄に

取り組んで来ましたが、一人でも多くの方々に、「行きたかった」「やりたい」と言う声をあげてもらいましたが、一人でも多くの方に、「行きた

い」「やめた」「できた」

利用者の方の、自立と社会参加を目指す目的意識をはつ

て行きたいと思つてみたいと言つてみたい、行つてみたい、楽しんでみたい、行つてみたい、乐しくめ細かな対応を行つています。

利用者の方の、自立と社会参加を目指す目的意識をはつ





ドキドキワクワクの体験を!  
土曜あそびの広場 小・中コース2003.6  
“津別町ホーストレッキング研究会  
の皆さんの指導で乗馬体験!”



同世代の若者同士で交流しよう!  
土曜ひろば高校生コース 2003.6

たり、通園センターや幼稚園、保育園、各学校、地域内支援グループ等と連携し、地域支援活動に取り組んでいます。

地域内関係機関の皆様とのネットワークをフル活用し、相談活動及びケアマネージメント支援に努め、個別的なニーズに対応する訪問療育サービス“あそび虫”や発達検査に基づく個別プログラムの提供等を直接、ご利用いただけます！

私達地域サービスセンタースタッフ一同は、地域のお子さん達やお母さんを中心としたご家族から、とびつきりの笑顔に向けていただける事を誇りとし、喜びとして日々の地域生活支援活動に取り組んでいます。

又、大勢のボランティアさんに支えられながら、土曜日や長期休暇（夏・冬）中の余暇支援活動に取り組み、楽しい時間の共有をはかっています。さらに生活施設の機能を發揮したショートステイサービス、秋より開始予定のホームヘルプ等々、皆様のご相談ご利用お待ちしています！

スタッフ一同は、地域のお子さん達やお母さんを中心としたご家族から、とびつきりの笑顔に向けていただける事を誇りとし、喜びとして日々の地域生活支援活動に取り組んでいます。

又、大勢のボランティアさんたちが発足しました。友楽里地域援助センターでは、地域で生活している方々の就労、生活に関する相談、支援活動を行っています。

就労支援として、地域の事業所一〇ヶ所で、就労、実習をしている方の支援にあたっています。今年から、北海道障害者職業センターの委嘱事業として、「ジョブコーチ」が配置となり、障害をもつた方が、職場に適応できるよう援助をしています。

また、友楽里地域援助センターは、川東学園・友楽里のショートステイ、デイサービス、ホームヘルプ、施設サービス等の利用窓口となっています。随時受け付けていますので、御気軽に御利用下さい。

**皆さんのが笑顔に  
出会いたいから！**

きたみ学園地域サービスセンター  
コーディネーター  
**松井恵美**



大勢のボランティアさんに支えられて!  
土曜あそびの広場 小・中学生コース 2003.5

園センター、園、保育園、各学校、地域内支援グループ等と連携し、地域支援活動に取り組んでいます。

**“友楽里地域支援”**

地域援助センター  
ケアマネージャー  
**ジョブコーチ 鍋幸江  
佐々木卓**

イクラブでは、四十名位の方が、登録をしています。余暇活動が主な活動です。年数回の集まりですが、皆さんとも楽しみにしています。『川東の里』のグループホーム、在宅、隣町の通勤寮の方々と共に、友楽里地域援助センターが発足しました。

友楽里地域援助センターでは、地域で生活している方々の就労、生活に関する相談、支援活動を行っています。今後は、余暇活動に限らず、仕事の悩み、要求、いろいろな思い等が語り合える場となることを願っています。

また、友楽里地域援助センターは、川東学園・友楽里のショートステイ、デイサービス、ホームヘルプ、施設サービス等の利用窓口となっています。随時受け付けていますので、御気軽に御利用下さい。

生活支援としては、地域生活において生じる悩み事相談、生活課題の解決等の支援を行っています。又、知的障害をもつた方々の自主組織である本人会（ボパイクラブ）活動の支援も行っています。ボパ

## 親子旅行に参加して

きたみ学園父母会

坂本由美

先日五年ぶり位で親子旅行に参加してきました。行先は知床、当日はあいにくの雨、雨の日が多いのは六月という月のせいなのでしょうか。今は和康の姉も一緒だったのですが、今回は二人、よく動く子なので何か私の方がちょっと不安でした。

ホテルに着いてからは温泉とバイキングでの夕食会。たくさんのお料理の中でお風呂のあとのかわいい、アイスクリームが一番のようでした。

翌日は観光船で知床を周遊しました。船の揺れ具合と、かもめが波間に飛ぶのが良かつたのか久々の笑顔でとても楽しそうでした。多分前に来た時よりも大人になつているので楽しいものが少しづつありました。笑顔が見られるようまた来年も参加したいと思います。

## 親子旅行の思い出

川東学園父母会

花輪弘子

広々とした“川東の里”に恵みの雨、その中をはずんだ心で出発、一泊二日の阿寒親子旅行、流れる景色に静かな車内、ふといつまで晋一と参加出来るのかと思つたりしていると目的地に、鶴雅の気配りを感じながら相部屋の川村さんと落着く。子供達はお風呂に入れてもらい、お楽しみ、夕食会、そこで思い出深い、突然の親子での二人羽織の指名にあせる。出来るかな。先ずは口探し、ここだと飲ませ食べさせるが、爆笑の渦に自信がない芸が上出来で困った人ごめんなさい、良い経験をさせて頂きました。翌日は晴れて、遊覧船でマリモを見学して少し待つて昼食、時間調整、人数確認その他と添乗員職員の皆様にはお世話になりました。帰路の寄り道した相生で買った赤い花が八重に咲いています。

## 「苦情解決」の取り組み

「なやみごと相談室」  
相談内容から

苦情解決委員会 橋本和義

この活動からテーマに沿った具体的な内容を掲げますと、一、投書箱の設置（本館と通所施設のロビー）二、面接日の設定になります。

投書については、定期的に回収（週一回位）、面接は、要求表現や意思表示の苦手な方が多いため、職員は利用者の立場になつて思いを引き出すように努めています。

今回、五月に実施された「なやみごと相談室」の相談内容等を集約した結果を載せています。

集約結果を見ると、職員を含めた人間関係の相談内容も多くの解決に向けた対応の難しさを感じました。

しかし、百八〇名を超える利用者のうち、相談者は四名と約二三%であり、重度の方を含めた大多数の思いをどうに吸い上げていくのが最大の課題として残りました。いずれにせよ、私達職員は毎日が「面談日」であるという意識を持つて、利用者の声に耳を傾けていかなければならぬと思っています。

### 「なやみごと相談室」

日 時	相 談 内 容			一 次 対 応 者	相談職員・担当職員
5/13(火) PM1:30~	川東学園利用者(13名)	友楽里・風楽里職員		6名	
5/14(水) PM4:30~	きたみ学園利用者(13名)	川東職員		5名	
5/15(木) PM1:30~	友楽里・風楽里利用者(15名)	きたみ学園職員		7名	

### 相談内容

区 分	きたみ	川東	通 子	合計	内 容
生 活	7	10	1	18	外出を増やして欲しい、買い物がしたい、飲酒
食 事	5	4	1	10	沢山食べたい(好物も)、おやつを色々食べたい
住 環 境	2	1	1	4	暖房が暑い、施設移動の希望、エアコンが寒い
人 間 関 係	4	5	6	15	友達と仲良くしたい、呼び捨てにしないで欲しい
金 銭	1	0	0	1	自分のお金はどれだけあるか
行 事 旅 行	2	1	1	4	旅行に行きたい
職 員	3	1	5	9	優しくして欲しい、話をきちんと聞いて欲しい
仕 事	1	1	3	5	体力に不安がある、違う内容の仕事をしたい
そ の 他	2	6	2	10	職員とゆっくり話がしたい等
合 計	27	29	20	76	

※一件で複数の相談内容もあり、種類の合計と相談内容の合計は一致しません

## “新しい学園になつて”

菅原 淳

ぼくがかんじたことは、まづ一つは、まえの学園よりは、しづかになつたことです。一人部屋では、ほかの人にはめいわくがかからないことです。ぼくのばあいは、部屋の中では、CDやカセットや本をよんだり、ひるねしたりなどをしています。またよるの十時まで工大生といろいろのはなしをしながらテレビを見たり、めろんとうの仲間たちとごはん食べたりおふろはいつたりしています。部屋のまどからぼくの好きなバスの車庫が見えたり、夜になれば、北見のけしきがあかるく見えます。

あと仕事のめんでは、以前はたらいていたクリーニングのしごとは五月いっぱいでやめましたが、今は、「フレンズ」のハム工場ではたらいています。ぼくは、せんぱいといつしょに、できたハムのりをパックにつめたり洗い物を

したり、北見ヶ丘の草あつめなどをしています。

この新しい学園にうつって



## “新しい工場になつて”

紺野 勤

からは、まえの学園にはなかつた、デイルームにれいぞうこやホットプレートなどがついたり、とくにめろんとうにBSデジタルというえいせいほうそうのテレビがついて、大好きなアニメやバラエティなどが見れます。これから

学園の生活がよくなるためには、明るい学園になるように、ぼくもふくめてしごとも生活も一生けんめいがんばりたいと思います。

新しい工場になり、とても工場が広くなり本当によかつたです。昔の工場では歩くたびに人にぶつかり、ケンカも時々ありましたが今の工場ではそんな事もありません。ゆつたり仕事ができるので仕事も楽しいです。

ただ、広くなり、製品を運んだり清掃したりする事が、大変になりました。ですが、大切な新しい工場ですので、大事にし、たくさんの仲間と仲良く働きつづけたいです。

くんえん釜もあたらしくなりたくさんくんえんできる様になりました。作り方もいろいろためしながら昔の製品とかわらない味になる様がんばっています。

わたし達がつくったハム、ソーセージをぜひ食べてみて下さい。

## “新しい友楽里にかよつて”

坂田理子

前のパン作業所は、せまくて仕事が思うようにできませんでした。でも今の新しいパン作業所は、とても広くて、機械がつかいやさくて、色々な種類のパンを焼くことができます。

川東の里 “友楽里” の休憩室でパンを売ることもありますので皆様も来て下さい。

私のおすすめのパンはうず巻パンと、メロンパンとクリームパンです。ぜひ買って食べてみて下さい。



（寄付金）	合田 寿 様	永山 博之 様
北見信用金庫	加藤 道吉 様	
北神産業（株）	池田 彰 様	
代表取締役	渡部 正勝 様	
尾関智彦 様	村内 勝広 様	
栗原芳子 様	佐藤トヨ子 様	
佐藤めぐみ 様	椿原 稔 様	
市川慧 様	丸井 ひろ 様	
中村忍 様	武田 里恵 様	
浅田昭子 様	外岡 良一 様	
（株）コンシスボーツ	（株）	
国際ソロプロチミスト北見		
（株）加藤商店	会長 村田 慶 様	
代表取締役社長	加藤 文夫 様	

皆様からの  
たくさんの  
ご厚情  
ありがとうございました。

（プロレス観戦にご招待  
頂きました）  
荒木 政之 様

（花壇の整備をして  
頂きました）  
（洋食料理をご馳走して  
頂きました）

国際ソロプロチミスト北見みんと  
会長 吉田多恵子 様

全日本司厨士協会北見支部

支部長 梶井 敏幸 様

（キグレサーラスにご招待  
頂きました）  
（株）キグレサーラス 様

（川東学園訓練農場の  
整備をして頂きました）  
きたみ学園、川東学園、友楽里、風楽里  
父母会の皆様



## 窓口「オーレ」 生懸念がぬましました。

旧施設では地域のみなさまに御愛顧いただきました「オーレ」ですが新施設敷地内に移転し「販売実習」を目的とした福祉の店に生まれかわりました。

今まで通り川東の里で生産されていますハムソーセージ、パンをはじめ農産物、豚肉、しいたけ等も販売する予定です。少々遠くなりましたがお近くにおよりの際はぜひ御来店下さい。八月二十一日オープンの予定です。

おまちしております。



## 編集後記

新しい施設に引っ越しして早六ヶ月、すっかり落ち着いた生活、敷地の空き地には黄がらしが風に揺れ、花壇には“どらの尾”がピンクの穂を伸ばし、広い芝草もこの間の小雨で緑を増し、六月には多くの関係者の皆様の参列を頂き盛大に落成祝賀会を終えることが出来ました。

六・七月は戸外活動の季節班ドライブ、親子旅行、おやこレクリエーションにグループ旅行、キャンプ、夏の帰省を前に利用者の皆さん、思い切り生活を謳歌しています。年輩の方には懐しいキグレサーラス、ご招待頂き、みんなで楽しみました。会場では他施設に移られた懐しい顔にも再会。通所、デイサービス、パン工場、ハム工場も軌道では、毎日地道な作業活動が続けられています。

（横田、飯田、小関）